



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カールブライ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

最終回がハッピーエンドじゃないドラマとかを観るとちよっとモヤるのは私だけ？

「前回までのあらすじ」

ホワイトデーの放課後、憧れの千絵ちゃんを公園に呼び出したカジ少年(中2)。いよいよ告白かというときに、白いデカワゴンにじゃまされるといふハプニングを乗り越え、ついにその時を迎える。痛快リアル思い出ストリー最終回!

中央やや左の大きい文字の辺りに結末が見え隠れするが、そこは見ないように読み進めるのが大人の対応だ。

● クズ人間で学校にすらいかなかった自分を上手に導いてくれた彼女には、感謝の気持ちしかありません。この場を借りてお礼をさせていただきます。ありがとう、千絵ちゃん!

「千絵ちゃんとは……
ずっといい友達でいたいです……」

えっ?まさかの友達宣言に不思議そうな顔の千絵ちゃん。不思議そうというかボカンですわ。何ならシロもボカンですわ。

本当にまさかですよこれ。思っていること、発する言葉が違うなんていうことは、人生においてこれが最初で最後。今でもカジ史の七不思議の一つとして、心にねっとりとはばりついているのです。あの日、なぜ自分の気持ちを伝えられなかったのか。現在に至るまで何度も何度も思い返しているけど、これについていう決定的な答えはありません。そして、その答えはみんながそれぞれ考えてみてください。じゃまたね!

『犬は吠えるがキヤラバンは進む』

犬はワンキャン吠えるけど、そんなことはお構いなしにキヤラバンは進んでいく、または進んでいかなければならないというような意味のアラフの諺である。千絵家の飼い犬シロ(仮)のじゃれあい攻撃を回避して、自分の想いを伝えなければならぬ。当時のカジ少年に贈りたい諺な。

露骨に嫌な顔をするわけにもいかず、それなりにじゃれあいに応じながらも、「アッとしてもらうていい?」という言葉でうまいことシロをアッしてもらい、シロから数メートル距離を空けた場所にボジジョニング。さあキヤラバンを進める時間だ。

「バレンタインチョコありがとう。すごく嬉しかったよ!」カジの言葉に無言でうなずく千絵ちゃん。いいよ、いい出だしだよ。「今日はそのお礼のほかにも伝えたいことがあって……」用意していたお返しのカッキー的なやつを渡しながら千絵ちゃんを見つめる。流れは完璧。それではカジさん、告白の言葉をお願いします!」

